

BUNGAKUZA TSUSHIN 2024.4 Vol.776

文学座通信

- 本公演『アラビアンナイト』……………1～3
『アラビアンナイト』の魅力・公演情報
- 地方公演『五十四の瞳』……………4
- 幕間(まくあい)—————横田栄司……………5
- 新座員紹介……………6
- 座内賞発表/アトリエ短信……………7～8



宣伝メイク ■ 難波由華 宣伝写真 ■ 佐藤克秋 宣伝デザイン ■ 三木俊一(文京図案室)

5月4日(土・祝) / 18日(土) 信濃町文学座アトリエ

スペシャル企画・キッズイベント ～みんなでつろうアラビアンナイト

おはなし動画「空とぶじゅうたん」づくり+『アラビアンナイト』の稽古見学

セリフを読む 効果音をつくる シーンの絵を描く

文学座の稽古場でプロの俳優と一緒に“おはなし動画”をつくってみませんか？

創作日:4月20日(土) 13:00～16:00頃まで 於:文学座
(おはなしづくり+『アラビアンナイト』稽古見学) 新モリヤビル2階稽古場

●参加費:無料 ●対象年齢:6才くらい～12才くらいまで ●募集人数:15名ほど



応募締切は
4月14日(日)正午まで
Googleフォームにて

動画作品は「アラビアンナイト」公演期間中、会場のどこかで上映。また、YouTube文学座チャンネルでも公開を予定しています。

アトリエ短信

■ 鶴山仁が文学座劇団代表に就任しました

昨年6月25日、角野卓造が代表退任後、幹事会が代行してきましたが、座内選挙により鶴山仁が選出され、2月28日の劇団総会承認を以って劇団代表に就任しました。



劇団総会では「パンデミックなど芝居に対する逆風が吹き荒れているが、こういう時に力を発揮しなければ芝居が芝居である意味がない。これをむしろチャンスだと思って、新機軸を打ち出していかねば」と切り出しつつ、「個人的なことを言わせていただければ、お客さんに観せたい芝居というのは、自分が演りたい芝居だと思っていて、傲慢とか身勝手なのですが、いろいろな反論や意見を活発に交わしながらやっていきたい」。それを基本方針とし、「現場では異論反論が演出者を育てるところがあるように、異論反論が劇団を逞しくすると信じている。文学座ならではの風通しのいい雰囲気を保ちながら2027年の九十周年、さらにその先の百周年に向けて、皆で力を合わせていい芝居をつくり続けていきたい」と語りました。

我々の思い描く「劇団代表像」とは、芸術的・演劇的な指針が示されること、劇団の運営において公平性・公正性が守られること、経営においては長期的な視野に立ち適切な指導性が発揮されること、さらに劇団を代表して文学座の名譽を守るなどが期待されているのだと思われまます。しかし、劇団代表にこれらの期待をすべて負わせるのではなく、代表を中心に全座員が責任を持って共に道を拓く、それが選挙というものの意味だと考えられます。重要な点は、投票者たる座員各位が改めて劇団という組織と向き合うこと。座員各位の自立的な投票行動を期待します。

(選挙委員会・劇団代表選挙要綱より)

生田みゆきが令和5年度(第74回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞!

演出部の生田みゆきが芸術選奨文部科学大臣新人賞(演劇部門)を受賞しました。

「イスラエルに収監されるパレスチナ人政治犯の(日常)を再現する『占領の囚人たち』では、キャストとともに現地を訪れ、その体験をも作劇に織り込むことで、日本の観客に距離感なく過酷な現実を知らしめた。『産む性』である故に葛藤する三世代の女性の物語が同時進行する『アナトミー・オブ・ア・スーサイド』では、緻密に絡み合う重唱の楽譜にも似た実験的な戯曲を、果敢かつ丹念に解析した。(いま)をとらえる知性と感性に加え、困難を具現化する胆力と行動力にも恵まれた、頼もしい新鋭である」と評価されました。

第31回 読売演劇大賞 優秀演出家賞受賞・生田みゆき

贈賞式にて(写真右)。前回の最優秀演出家賞・五戸真理枝からブロンズ像を受け取る。



改名 飯嶋佳保が志知佳保に改名しました。

退座 演出部の石井強司が2月末日付で退座しました。

座友 演技部の角野卓造が退座し、4月1日付で座友となりました。

ギフトチケット(一口3千円)について

観劇を希望していても様々な事情で舞台芸術に触れる機会の少ない子供たちに文学座の観劇体験をプレゼントすることのできるチケットの取り扱いを始めました。文学座が提携する子供支援団体を通じて取り組みです。

◇お問い合わせ ☎ 03-3351-7265

(午前11時～午後6時/年末年始および土・日・祝を除く)

◎追加情報は文学座HPにて

出演情報

★川辺邦弘、木場允視、宝意紗友莉、鈴木結里：『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子 訳、ジョン・ティファニーオリジナルストーリー・演出) 2022年7月～2024年6月末～TBS赤坂ACTシアター
★浅野雅博：音楽劇『母さん』(堀江安夫作、横山由和 演出) 3/13～4/13 全国演鑑連(中国・関越ブロック)
★得丸伸二：『とても簡単な物語』(マリア・ラド作、金澤菜乃 英演出) 4/3～8シアターX(両国)
★山崎美貴：『花に嵐』(高井浩子作・演出) 4/4～7 東京国立博物館(九条館)

★sara：ミュージカル『ヴァイオレット』(ドリス・ベッツ「The Ugliest Pilgrim」原作、ブライアン・クロウリー 脚本・歌詞、芝田未希 訳・訳詞、藤田俊太郎 演出) 4/7～21 東京芸術劇場(プレイハウス)、4/27～29 梅田芸術劇場(シアター・ドラマシティ)
★亀田佳明：プログラムA『デカローク1～ある運命に関する物語～』&『デカローク3～あるクリスマス・イブに関する物語～』(クシシュトフ・ケシロフスキ/クシシュトフ・ピエシェヴィチ原作、久山宏一 訳、須貝英 上演台本、小川絵梨子 演出) 4/13～5/6 新国立劇場(小劇場) プログラムB『デカローク2～ある選択に

関する物語～』&『デカローク4～ある父と娘に関する物語～』(クシシュトフ・ケシロフスキ/クシシュトフ・ピエシェヴィチ原作、久山宏一 訳、須貝英 上演台本、上村聡史 演出) 4/13～5/5 新国立劇場(小劇場)
※プログラムA,B交互上演になります。以降プログラムC[デカローク5・6],D[デカローク7・8],E[デカローク9・10]あり(出演については次号にて)
★鬼頭典子：『明日になれば』(ふたくちつよし作・演出) 4/17～23 中野テアトルBONBON
★廣田高志、石井麗子：『あいつが上手で下手が僕で～決戦前夜篇～』(諏訪雅脚本・演出、橋本和明 総合演出) 5/3～12 IMM THEATER(文京区後楽)ほか

文学座通信のお届けはゆうメール(日本郵便)を使用しており、土日祝の配達はありません。そのため毎月10日頃を過ぎる場合があります。数日お待ちいただければ幸いです。